

変わる錦城 授業のカタチ



324号
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2020

みんなでつくる
錦城高校新聞

錦城で行われている
様々な感染対策
今回は先生に実情を
インタビューしました



接触を最小限に抑えるため、縄跳びを使って行われる体育の授業
実技の授業回数も週3回から1回に減っている

校長、体育科の先生に感染対策を聞く

新型コロナウイルスの影響を受けて、錦城高校は学校生活における様々な工夫を行ってきた。今号では松林校長先生と、特に授業形態が変わった体育と柔道・ダンスの先生に取材した。

熱中症の防止も

新型コロナウイルスの影響により錦城高校は休校期間中、消毒液やフェイスマスク、検温器の導入やデスクシールド設置など、対策を行ってきた。

学校再開後も感染予防対策は必要だが、校長の松林博之先生は今後について「さらに気温も上がってくるので、飛沫感染防止のためにマスク着用を義務づけながら熱中症対策を行う必要があると思えます」と語る。行事についても内容を工夫しながら現在予定しているものは開催したいという。最後に今後の学校生活について「感染予防対策と熱中症防止の2つに配慮して予定を組み立てていきます」と話した。

(編集部共同取材)

体育では座学も導入

新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、現在、体育の実技の授業を週3回から週1回に減らしている。体育科主任の上原啓先生は「体育の授業で密にならないようにするのはなかなか難しいです」と話す。しかし、運動不足だと上手く汗をかけなくなり、熱中症になる可能性も高まることから、週1回は実技を行うことにしたそうだ。第1体育館にも冷房を設置し、現在は

ついに実現！PET自販機設置 廃棄に関する問題も…

6月23日(火)、錦城高校にペットボトル自動販売機が設置された。この自販機の設置は、生徒会が昨年からの活動を展開し、実現したものだ。生徒会長の橋颯太郎くん(3A)は「前会長の代から約1年半かけて推進してきたので、ほっとしています」と心境を語る。



自販機に飲み物を買いに来た錦城生

橋くんによると、今回の自販機設置の実現には、新型コロナウイルスが大きく影響したという。以前は環境問題を理由に疑問の声があがっていたが、校内の冷水機が感染防止策のため現在使えず、学校再開の時期も比較的熱い6月のため、水分確保を目指して設置された。また、生徒会も設置へ向けて休校期間中に活動を行っていた。指導部会で設置方針が示されたのを受けて、大まかな概要を提出。その後リモート生徒会を開き、使い方などについて議論し続けた結果、職員会議で承認された。

外部のペットボトルを捨てることは禁止されているが、導入から2日間で4本の廃棄が発覚した。「ルールがまだ徹底されていないと思うので生徒会報を通じて理解してもらえるよう努力していきたいです」と橋くん。「新しいことを始めたら、生徒の責任が問われます。それを守れなければ自由が減るのは当たり前だと思っています」と生徒へメッセージを送った。(薙)

柔道、実習以外の授業を

体育館で実技を行っている。着替える、3密を避けるために女子は自分の教室、男子は体育館で行うなど対策をしている。授業中は基本的にマスクを着用し、辛い場合のみを外すように指示しているそうだ。また、授業で扱う競技もできるだけ密にならないようなものを選んで実施。2年生が行っているバスケットボールではシュート練習をメインで、対人の練習は行っていないという。ボールは1人1つ同じものを使用し、消毒もしている。

対策の上、楽しむダンス

柔道の授業については、石塚友規先生に話を聞いた。これからの授業は、筋トレやストレッチのほか、東京オリンピック関連のビデオ鑑賞をする予定だそう。通常授業再開のめどは立っていないが、少なくとも1学期の間はこの授業体制が続くそうだ。石塚先生は「生徒には運動を通してコミュニケーションや健康の維持をしてほしい」と思っています。今の状態だと

ダンスの授業では、飛沫感染を防ぐために授業形態を変え、パイプ椅子に座った状態で音楽に合わせてストレッチや、ソーシャルディスタンスを保った上でのダンスをする形になった。換気や熱中症対策のために水分補給の時間をこまめにとるなどの様々な工夫も行っているという。授業を担当している中村星仁先生は「例年よりも体育科目の授業が少なくなる中で、ダンスの授業で体を動かすことを楽しんでほしいです」と話した。